

REFEREE NEWS



公益社団法人千葉県サッカー協会審判委員会

October 2017

年4回(1・4・7・10月)発行

レフェリーキャラバンin千葉！！

皆さん、レフェリーキャラバンをご存知ですか？

「レフェリーキャラバンプロジェクト」は、JFAが2015年より実施している事業で、将来的なレフェリーアカデミー構築の足がかりとして、JFA審判委員会や審判ダイレクターが都道府県サッカー協会審判委員会を訪問し、現状における課題や今後の方向性などを情報交換をしながら、地域・都道府県FAと協働して、審判員の普及・育成・指導体制を更に強化していくことを目的としたものです。

9月2日(土)～9月3日(日)に千葉県開催が行われ、明海大学で指名インストラクター21名、指名審判員30名、その他オブザーバーを含め約70名ほどが参加し、2日間に渡り楽しく研修が行われました。



初日の参加メンバーでアタックチャンス！

目次

レフェリーキャラバンプロジェクト	1～3	強化審判員より	10～12
決勝審判表彰	4～5	更新講習、新規講習会案内	13～14
女子香取研修会報告	5～6	地域で頑張っています！	15～16
ユース研修会報告	6～8	レフェリーフィットネスコラム	17
FFP研修会報告	9	ワンポイントレッスン	18～20
シニア研修会案内	9	通達案内	20

千葉県今回のターゲットはインストラクター。

フォーチュンクッキーでのアイスブレイクからスタートし、チュータリングという指導法について、講義やグループワークを中心に研修ながらも和気あいあいと学びました。審判員は家本プロフェッショナルレフェリーの講義など、貴重な話を聞くことができました。



フィードバックのロールプレイング



みんなでフォーチュンクッキー♪

☆インストラクター、審判員それぞれ1名より感想をいただいたのでご紹介いたします！

★3級インストラクター 小栗山 浩史

今回のキャラバンでは、「チュータリング」と「新アセスメントレポートの考え方と記載方法」そして、「新アセスメントに基づく指導の実践演習・審判員へのフィードバック」を学ばせていただきました。

「チュータリング」という指導方法の考え方、また自分で実際に体験・実践を行い、非常に新鮮で、これからの審判員を指導していくにあたってとても参考になる指導方法であると感じました。また、現役トップレフェリーである家本さんの審判員の立場から講義・フィードバックのお話を聞かせていただき、「チュータリング」指導方法は積極的に取り入れていくべきだと改めて感じさせていただきました。

インストラクターとしてはまだまだ経験も知識も未熟な私ですが、今回の研修で得た知識や情報・手法を一人でも多くの審判員にフィードバックし、審判員育成のための活動をしていきたいと思えます。最後になりましたが、2日間ご指導していただいたJFA高橋インストラクター、斉藤インストラクター、家本プロフェッショナルレフェリーに感謝申し上げます。



みなさん真剣です！！

グループワーク中



グループごとの発表



☆サッカー2級審判員 永島 淳平

今回のレフェリーキャラバンの開催にあたってJFAのスタッフの皆様、また当日の運営だけでなく事前準備の段階から今回のような環境を整えていただいた千葉県の審判委員会の皆様に感謝します。多くの審判員、審判指導者の方々にとって非常に有意義な、今後の成長のきっかけとなるような時間を過ごせました。

今回のキャラバンで最も印象に残った言葉は、プロフェッショナルレフェリーの家本政明さんによる『熱意(1~100)×能力(1~100)×考え方(-100~100)=結果』という考え方を紹介していただいたことです。この式において注目すべき部分は、考え方の部分には『マイナスの世界』が存在しているということで、つまり、能力が非常に高い審判員であっても、考え方が否定的、ネガティブな審判員は決して良い結果は得られず、むしろマイナスな結果になってしまうということでした。

『考え方』が成長するために1番大切な要素であるとするならば、心の鍛錬が何よりも重要であること、自分の人間的な魅力や長所や短所、さらに信頼を得るためにはピッチ内外で何が必要であるかを考えました。これらのことはピッチ上でのパフォーマンスに関わることであり、自分の心を磨くうえでも重要なヒントを握っていると思います。もちろん、審判員として試合を任された以上、審判員としての専門性は持つべきです。ピッチ上で高いパフォーマンスを示すため、信頼されるためには人間性を磨き続けることが重要であるということ学びました。

また、審判員として魅力的なサッカーの試合を提供することは非常に重要なことです。

そのような考えから、『極上の審判員とはどのような審判員か』という問いかけがありました。



家本レフェリーによる講義



午前中のフィードバック

サッカーに関わる全ての人を心からリスペクトすること、審判員はピッチ上で自分の能力の最大を尽くし魅力的な試合を作り上げるべく努力すること。今まで何度か耳にした言葉ではありますが、今回のセッションを通してより明確に意識することができるようになったと思います。自分の中で理想の試合像、審判員像を持ち、その実現を目指して試合に臨んでいきたいと思っています。

しかし、技術的なことを鍛えなくてよいというわけでは決してありませんし、今回のキャラバンでも技術的なセッションがなかったわけではありません。

競技規則の解釈、判定の考慮点の整理など重要なことは学びました。しかし、最も基本的でありながら、常に意識しないと忘れてしまうような人としての在り方や、審判員

としての在り方を私自身は1番に学べたことと感じています。

今後、千葉県審判チームの一員として学んだことを少しずつ実践していきたいと思っています。



☆試合をより良くするための審判指導法と審判員の距離が大事です☆

Great work!